



針尾(小鯛)城跡の発掘調査で出土した、15～16世紀ごろの輸入陶磁器や銭貨、硯などの遺物(4ページ参照)

広報  
No.647

# させぼ



広報させぼ 編集長  
「キューちゃん」

特集

## 針尾城跡を訪ねて

2～5p

### 今月の主な内容

定例市議会、市職員採用試験など	6～9p
イベント、施設だより	10～12p
市民の広場	13p
歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド	22～23p
九じろうの取材日記	24p



PUBLIC RELATIONS SASEBO



広報 させぼ

### 編集長から「一言」

佐世保市の西南端に位置する針尾城跡。意外なほどにたくさん遺物が出土しました。遠くはタイ産や、今はトルコ、イタリアで見られない陶磁器など、海外との交流の跡を示すものです。もし、横瀬浦が焼け落ちていかなかったら、佐世保周辺の歴史も変わっていたかもしれません。(一)

「高度な技術や腕力が必要としないので、運動が苦手な人も楽しめます。家庭内での話題作りのために、ご夫婦で参加されることもお勧めです」と松本さん。  
お尋ねは、佐世保市グラウンド・ゴルフ協会・会長の松本さん(☎02368)にどうぞ。

### 健康増進と家庭円満に一役



見事に決まったホールインで、会員からこぼれる笑顔



スタートマット上のボールと手にしたクラブは、各自の持ち物

「ルールは簡単ですが、その日の天気や場所に左右される競技です」と松本さん。雨の前後や芝生と砂地とでは、ボールの転がり方が異なります。乾いた砂地なら鏡の上を滑るようにボールが走るし、雨後はスピードが落ちたり、思わぬ場所ですり落ちたりで、予測がつかないことも多いそうです。風でボールが転がることもあり、「結果が吉と出るか否かは、その人の運次第。最後まで勝敗の行方が読めない分、誰にでも優勝の機会が巡ってくるから面白い」と笑顔で競技の魅力を語る松本さん。正確なショットで、見事なホールインワンを披露する女性会員も多いそうです。力任せではない点も人気の秘訣のようです。

「勝敗は時の運ということも、親睦を図っているそうです。」

「ゴルフのようにクラブでボールを打ち、ホールポストに入る「ホールイン」までの打数を競うスポーツで、「いつでもどこでも誰とでも楽しめる」というグラウンド・ゴルフをご紹介します。

毎週月、水、金曜に、もみじが丘中央公園で練習している「佐世保南クラブ」

## 九じろうの取材日記

秋空の下、大地を相手に  
グラウンド・ゴルフ

### 競技人口は年々増加傾向



狙いを定め、ホールポストへ向け  
て慎重にボールを打つ会員

グラウンド・ゴルフは、昭和57年に鳥取県で考案されました。「佐世保市グラウンド・ゴルフ協会」会長の松本卓雄さんによると本市では平成5年の県大会をきっかけに競技が開始されました。ルールが簡単なことや個人戦形式であることの気軽さが受けて、現在は、同協会への登録者だけでも約四百五十人(24チーム)です。会員たちは、日々の練習で交流を深めているほか、同協会が主催する大会や市民体育祭など、市内外の競技大会に参加しています。標準コースを一巡すると所要時間は約30分です。通常、5～6人でグループになり回ります。参加者は「歩く」、「腕を振る」などの運動による健康増進に加え、各人がボールの動きに一喜一憂しながら、

平成16年10月1日発行

佐世保市役所企画調整部秘書課広報係 TEL 0956-24-1111 FAX 25-2184  
〒857-8585(市役所専用)長崎県佐世保市八幡町1-10 http://www.city.sasebo.nagasaki.jp 印刷/サン印刷株式会社

